

八幡小学校

「生きる力を支える確かな学力の育成」 ～自分の考えを深められる学びの工夫～

I 研究の内容

1 授業づくり

(1) 「やまなしスタンダード」の2つの視点に基づいた授業改善

ア②話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている。

③児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている。

④児童生徒は、ノートをとっている。

【特支版】

②障害の状態に応じて自ら考え、判断し、表現する活動を具体的に取り入れている。

③自主的・自発的な学習を促す教材・教具等を用意している。

④達成感や自己肯定感が高められる指導を工夫している。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現（1人1実践授業を実施）

「情報交換」の場で、家庭学習や教科指導の効果的な取り組み、コロナ禍の中、子どもの学び合いを深めるための発問や問い返し、教材教具の工夫・活用など、お互いの実践例を発表し合い、年間のまとめを研究紀要に記載

2 学級・学習習慣づくり

(1) Q-Uの分析方法と学級経営の生かし方学習会

(2) 学級力向上学習会を実施

(3) 自主学習ワークシート（「きりっこノート」）の活用

3 その他

(1) コロナ対応授業づくりの学習会

(2) 研修会の還流報告

(3) ICT機器操作の学習会

II 研究の具体例

1 授業づくり

(1) 授業研究会 ※ワークショップ型で研究会を実施

11月 5学年 特別の教科道徳 真の友情「ロレンゾの友だち」

指導者 遠藤 哲也

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

1人1実践授業（10月～12月）

①全学級で、「やまなしスタンダード」の視点を取り入れた授業を実施した。

②初任者研修のための示範授業（全教科）実施

(3) 「深い学びにつながる発問・問い返し」についての学習会（10月21日）

文部科学省 CLARINETの資料を主な資料として、効果的な発問や問い返しについて学習した。

2 学級・学習習慣づくりの取り組み

(1) 学級力向上学習会（5月28日）

山梨市学級力向上プロジェクトの研究に携わり、取り組みを実践している高野先生を講師に、研修会を実施した。

(2) 家庭学習の主旨について理解を深めてもらえるように、家庭向きに手引きを出し、家庭との連携を強化した。

- (3) 「8」の付く日に、「きりっこノート」を宿題にしたり、ノートを綴った「きりっこファイル」を持ち帰らせ、保護者にコメント記入を依頼したりして取り組んだ。
- (4) 学級や職員室前の廊下にノートを掲示するコーナーを設置したり、掲示されたノートを校長が評価し校長室でしおりを配布したりするなど、児童の継続意欲の向上を図った。
- (5) Q-Uの分析方法と学級経営の生かし方学習会（8月26日）
河村茂雄氏の「集団の発達を促す学級経営」の資料をもとにいごちのよいクラスづくりについての学習会を行い、二学期以降の学級経営に生かす手立てを考察した。
- (6) 人権学習指導資料を使用し、新型コロナウイルス感染症に係る偏見、いじめ・差別がないように、子どもたちが感染症について正しく理解し実践できるように取り組んだ。

3 その他

- (1) コロナ対応授業づくりに向けての学習会（6月2日）
三つの密を避ける学校・学級づくりに向けて共通理解を図った。
文部科学省からの資料により、学校での一連の活動や授業の在り方について学習した。
- (2) 研修会の還流報告
校内研の時間に情報交換の場を設け、参加した研修会の還流報告や参考になる実践例、最新の情報などについて発表し、参考とした。
- (3) ICT機器操作の学習会
ズームやWebカメラ等の操作方法を学習し、児童会役員選挙等で活用した。

III 成果と課題

- 八幡小児童の課題を把握し、コロナ禍の中でも課題解決に向かうことができるサブテーマを決定し、研究を進めることができた。授業づくりの研究では、発問の内容をいつもより吟味し、児童の考えが広がったり活動を促したりするような工夫することで、学び合いにつながることを検証することができた。
- 研究授業や一人一実践を実施することで、各学級で研究テーマを意識した授業実践をすることができた。大型モニターや板書、掲示物など活動に合わせて効果的に使用したり、付箋やワークシートの活用により、友達の考えに触れたりすることで、学びの質を向上させるとともに、職員同士も学び合い、自身の授業改善につなげることができた。
- 自主学習ノートを掲示することで、学習内容や方法を学ぶ機会となり、参考にし合うことができた。また、学校長より褒められたり、しおりをもらえたりすることで、意欲の向上を図ることができた。
- 学級力向上の学習会を実施することで、具体的な取り組み方法を学び、友好的な学級集団づくりに継続して取り組むことができた。
- △全職員で授業を参観し研究する時間を確保できず、成果の共有という面で課題が残った。
- △コロナ禍の中、児童同士の学び合いをつくるのが難しかった。今後は、ICT機器の活用が必須になる。児童一人一台パソコンの有効活用に向けて、さらなる研修が必要である。

IV 成果物

- 1 各学級授業実践報告書
- 2 学級・学習習慣づくりの取り組み」各学級の取り組みと成果・課題
- 3 「学級力向上学習会」資料
- 4 「コロナ禍に対応した学校・授業づくり」資料
- 5 ICT機器を活用した実践

（研究主任 本宮知子）